

平成十九年十一月二十日

〒九三二〇八〇四

高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店発

2019.11.20

TEL 〇七六二一五二五五
FAX 〇七六二一五二五〇
E-mail info@ki-shouten.com



いつもお世話になりありがとうございます。

本通信は、私の身の周りに起こった出来事に対して私が思ったこと・感じたことを記してあります。

これを皆様にお届けし、それに対しての皆様のご意見を頂いて、それを今後の私の成長の糧とさせて頂きたいと思っています。どうぞ、忌憚のないご意見をお寄せください。よろしくお願いします。

一 我、日本弱体化に成功せり

ダグラス・マッカーサー

近頃の日本では、本来あるべき人間の道からは、はるかに遠く離れた非常識な出来事が頻発しています。以下に列記してみましよう。

○ 親が子を殺す。昔も、後妻が自分が産んだ子を大事に思うばかりに先妻の子をいじめ、甚だしきは毒殺や衰弱死に至らすこともあつたらしいのですが、今は、腹を痛めた実の我が子を殺すのです。

○ 子が親を殺す。昔は考えられませんでした。

○ 子供へのしつけの拙さ。一番代表的なのは「食事をする時、『いただきます』と言わなくても良い。ましてや学校給食時『いただきます』と言わせるのはやめてください」と言うこと。

○ 給食費を納入しないこと。どんな考え方から納入しないのか私には理解できません。

○ 県知事・官僚のモラルの低下(欠落)。汚職・接待・天下り、組織をあげて権限をフルに發揮して自己と仲間の利を図っています。官僚としての奉仕精神は感じられない。権限を背景に威張るだけ。

○ 国会議員の資質の欠落。「国民が選んだ議員だから最終的には国民が悪い」のですが、あまりにも知識・モラル・責任感が無過ぎる。

○ 動機のはつきりしない殺人事件・犯罪の多発。昔は犯罪が起きた動機が、例えば「貧困ゆえに、恨み妬みが募つて」と言うようにそれなりに納得のい

く理由がありました。今は、全然関係の無い通り魔的犯罪が多発しています。曰く「誰でもよかった。人が騒ぐのが面白かった」などあまりにも関係の無い動機による犯罪が多発しています。

この他まだまだ理解し難い出来事が多くあります。日本がどうしてこうなったのか色んな原因が考えられますが、私は、**間違つた教育方法**(後に解説)の結果だと思っています。

動物は生きて行くために自然(神)から、其々それなりの能力を与えられています。その上で、その与えられた能力の外に、それを駆使すべき方法を親から学びます。それは、その動物が生きて行くための最低の方法であり、それを身に付けたからといって必ずしも安泰な未来があるわけではありません。その先には更に過酷な試練が待っています。そして、その試練を乗り越えた者だけが、その生を全うするのです。神は何故生き物を創り、それらに生存競争という試練を与えたのか私には説明できません。「より優秀な者が残る」という規則を与えられたものと思ひますがその必要性が何処にあるのか分りません。「元々神はない。人間の創造上のものである」という説もありますが、それを論じますと、今回の私が主張したい論旨と方向が外れますので後日に廻したいと思ひます。

人間は他の動物に比べ、力はそんなに強くない、立派な牙や角も持たない、速く走れない、空も飛べない、水泳も上手くない、と本来ならば絶滅しても不思議ではないのですが、神は人類に特殊能力を与えました。それは手先の器用さと言語です。特に言語は相手とのコミュニケーション(意思疎通)において絶大な威力を發揮しました。固体としてあまり能力の無い者どうしが、意思疎通をし、協力し合うことに依つて、個々だけではとても敵わぬ相手をも倒し得ることを悟りました(鯨漁・マンモス狩など)。

この様な人類とよく似た生物がたくさんいます。その中でも、個々の命を滅却して団体の存続を図る動物で顕著なのが、蟻と蜂だと思ひます。彼らは一般の動物とは全然異なつた習性の動物で、全体の存在が自己の子孫の存在であり、彼らには、全体の大事に於いて自己の命を懸けて戦うのは当然なのです。そこにはもはや、自己という意識も無いかもしれせん。そんなコミュニケーションに依つて発展して来た人類の中で、最も蟻・蜂的なのが、日本人だと私は

思っています。欧米人に比べ体格に劣り、住んでいる土地は狭く産物・天然資源には乏しく、普通に敵対しては敵うべきではありません。でも「天(神)は二物を与えず」悪いことばかりではありません。日本は周囲を海に囲まれ外敵からの侵略を受け難く独自の文明を發展させることが出来ました。

人類はこの地球各地で、其々各々の文明を生み発展させました。世界遺産で有名な南米のインカ帝国文明の証物、天宮都市マチュピチュ。カンボジアのアンコールワットで有名なアンコールトム遺跡など、各地でその史跡が発見・発掘されています。

これ等の各地方文明国は15世紀〜18世紀、西

欧諸国の植民地争奪競争の餌食になりました。アメリカはイギリスの植民地として発祥し、現地人のインディアンの土地と産物を強奪しながら西へ西へと略奪を拡張、更にアフリカから何も知らない人間を捕まえて来て奴隷として扱ひ、現在の繁栄を得ました。インカ帝国はスペインに亡ぼされ、現在も南米、ブラジルではスペイン語を国語としています。イギリスは世界各地に植民地を造り自ら「七つの海を制し日の沈まぬ国」と豪語しました。また、今だに東南アジアの一部に、仏領インドシナなどと称する所があるのは当時の名残でしょう。

そんな状況下、日本が外国の植民地にならなかつたのは、他にもいろんな要素があつたからかも知れませんが、日本人の蟻蜂的団結のお陰だと思ひます。

この度の朝鮮・満州・中国侵略に始まる太平洋戦争に於いて日本は敗れました。軍部の狂気による先導の下、判断を間違ひ自他共に地獄の苦しみを味わつたことは大いに反省しなければなりません。

戦いは米國参戦、イタリヤ、ドイツが降伏してからは、圧倒的に物量に劣る日本の負けは決まつていました。しかし、この戦いで米英はじめ列國が驚いたのは、日本人の蟻・蜂的団結の力でした。しかも、高い知性とモラル(武士道・大和魂)を持つた人間の集団でしたから、戦争には負けなければ、その民族の質に恐れを抱いたのです。

そこで、戦後処理に当たつた日本占領軍(GHQ)司令官、ダグラス・マッカーサーに下された命令は「日本人を俯向けにせよ。二度と再び心を一にして敵対せぬよう飼ひ慣らすべし」。

彼は、民主主義の名の下「絶対服従の廃止、個人主義・個人の権利の主張、男女同権」という様な事を大いに広宣推奨しました。

そして60年、日本はまさに、女性上位、会社秘密の暴露、裏切り、仲間意識の希薄、同僚(上司・部下も含)との仁義無き蹴落とし合ひ、自分さえ良ければ、と言う構図が当たり前になりました。武士道や大和魂は何処にも見当たりません。

こんな日本が間違つているとは思ひません。凡て成るべくして成つていっているのですから、そんな舞台で頑張つて行くのも修行だと思ひます。

只、ダグラス・マッカーサーは、あの世でルーズベルト大統領に「我、日本弱体化に成功せり」と胸を張つて報告していることでしょう。

間違つた教育方法について

人は社会生活をして行く上で、一人間としての最低のモラルを身に付けていなければなりません。そのモラルは自然には身に付きません。親をはじめとする大人・先輩が教えてやらねば本人はものの善悪が分りません。例えば、盆栽を作る様なものです。どの枝を切り落とし、どの枝を伸ばすか、そこには必ずとひとつの法則があると思ひます。それを習得しないで盆栽作りに挑もうなら、切り落としてはいけない大切な枝を切つてしまつて良い姿にはできません。この盆栽作りの法則が、人作りで言えば教育方法ということになるでしょう。盆栽作りなら失敗したらまた新しい素材に挑戦すれば宜しいですが、人づくりはやり直しがききません。

たとえ痛がっても悪い枝葉は切らねばなりません。良い枝葉は伸ばしてやらねばなりません。自然のままが良いと思つるのは無責任です。心を鬼にして良い盆栽(人間)を造りましよう。

その為には貴方(親)自身が正しい方法を身につけなければいけません。もし、自分にその自信がなくても心配要りません。周りの人に教えてもらえばいいのです。

「食事をする時、『いただきます』と言つのは、

目の前の料理を作つてくれた人、その材料を運んでくれた人、その材料を作つてくれた人、これ等の人々に感謝の意味で言うのも間違いではありませんが、それより何より、その材料自身に対して感謝して言うのです。私たち人間が口にするものは、植物も含めすべて命あるものです。その命あるものに「あなたの命いただきます」と言つのです。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail Okiz2525@ki-shouten.com

(にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は、こちらへください)